

第113回役員会・第48回経営審議会 議事要録

日 時：2019年6月27日(木)14：00～15：40

会 場：大学本館 E-701 会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、片山理事、柳井理事、龍理事、田上理事
井上委員、今川委員、久保委員、柏原委員、小林委員
(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議 案

- 1 2018年度計画に係る自己点検・評価について
- 2 2018年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について
- 3 学長選考会議委員の選出について

報 告

- 1 2018年度卒業者の就職状況について
- 2 2018年度入学者選抜試験の結果について
- 3 2018年度入試広報活動報告及び2019年度入試広報計画について

議案1 2018年度計画に係る自己点検・評価について

<質疑応答>

[委員]

○コンプライアンス違反が発生した場合、学部等で起きた場合などは、全体で事例やリスクは情報共有されているのか。そして対策を講じる、そういう体制はできているのか。

[副理事長]

○事案が発生したら、研究費不正の問題については、研究費問題協議会を開いて情報共有している。その後、各教員にも周知徹底している。今回は、学長が講師になり、全教員に対して研修をした。それ以外でも何か事案が発生したときは、それに対して再発防止には大学として取り組んでいる。その都度、研究費の使用の改善等、必要な時に適宜行っている。

[委員]

○先生と学生といった立場の差から生ずる問題とかが起きた場合、起きてからではなく、未然に防ぐ努力が必要ではないか。

[副理事長]

○重要なことであると思う。ただ、いろいろな事案があるので、学生のプライバシー等に考慮して、情報共有すべきかどうかは判断して対応したい。リスクマネジメントが重要なので、さらにしっかり考える。

[委員]

○事前事後学習をしている学生の数値が減少していること、また、アクティブラーニングは大学卒業後の社会においても必要な力を育成するものだと思うし、そのために図書館に作ったラーニングコモンズの利用者数が減っていることはどうお考えか。

[副学長]

○1つ目の事前事後学習の件は、抽出調査から全数調査にしたため数字が下がった。抽出の際は、事前事後学習の必要があるような科目の教員に依頼していたが、全数にして、ある意味正確な数字に近づいたと思う。今後、力を入れていくので、効果があれば数字は伸びていくと思う。2つ目のアクティブラーニングについては、確かに数字は落ちている。内容に工夫を凝らして、質はよくなっていると思うが、質の向上は数字に表れにくい。今後、増やしていくように努力したい。

[委員]

○新しい施設を作ると、最初は利用者が多いが、減少する傾向がある。作った側の意図と利用する学生の思いがずれている可能性が高いので、学校はもっと学生の声をヒアリングすると利用者も増えてよくなるのではないかと考える。

[委員]

○情報リテラシーが今の学生は落ちているが、社会に出て書くことのできないものだ。学生時代から情報リテラシーを強化する内容を盛り込むとよい。また、就職率は上がっていて素晴らしいが、情報リテラシーを強化すれば今まで就いていなかった職種にも道が拓けると思う。

[副学長]

ラーニングコモンズは希望者が多くて、申し込んでも取れないとあきらめている先生も多い。広報に努めて、利用者を増やしたいと思う。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 2018年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

<質疑応答>

[委員]

○行政サービス実施コスト計算書があり、北九州市民1人当たりが2,625円負担しているようだが、目標値みたいなものはあるのか。人口減少の中で少子高齢化を迎え、地域の中で公立大学に求められるものは大きくなっていると思うが、この金額の妥当性とか、何か指針があるのか。

[理事]

○法令に基づいて市に提出を求められている数字になる。具体的には市の規則に載っている。前年度に比べたら100円程度減少している。市が、市民に対して説明責任がある。市から目標値は示されてない。

[委員]

○ほかの公立大学と比較したり、ベンチマークしたり等は公立大学協会等にあるのか。

[理事]

○公立大学協会が95大学の様々なデータを毎年とりまとめて公表しているが、行政サービス実施コストに関しては見たことがないので確認してみる。

[委員]

○貸借対照表を見ると、有形固定資産が2005年度には200億近くあったが、減価償却で価値が下がってきて、図書館ができて少し上がっている。建て替え時などは市立大学なので市に財源を依存しているのはやむを得ないが、市からお金を出してもらうために、大学として戦略的に考え、建て替えによって未来がこうだというビジョンまできちんと考える必要を感じる。また、運営費交付金も減少しているが、国立大学も、私立大学の一般補助金や、競争的原理が持ち込まれ始めたので、公立大学もいずれそうなるだろう。市から言われて動くのではなく、こちらから提案して、運営費交付金の維持や増額を戦略的に求めていくほうが良いと考える。

[理事]

○施設設備の老朽化による建て替え、施設の長寿命化等は、本学の喫緊の課題だと認識している。長寿命化については、過去策定した計画を現在見直しているところである。本館も30年弱、低層の建物は40年、50年になっており、古いものは耐用年数からしてもあと10年というような状況だ。今年度中に計画をとりまとめて、市と協議をしたいと思う。

建て替えのための積立金はないが、目的積立金というどんな用途でも使用できる形で積み立てをしている。しかし、市の財政も厳しいが、建て替え費用は設置団体の市が設置するという方向で話し合いを進めていく。運営費交付金は、2005年度から2018年度（独立法人化以降）のデータを出しているが、ご指摘の通り、減少傾向にある。今年度は、昨年度に比べて500万円増額してもらった。毎年、理事長、学長が市長、財務担当の副市長と協議の場を持っており、大学の努力、地域への優秀な人材の還元、技術の提供などを説明していただき、地域への貢献を鑑みて、運営費交付金の増額をしてもらったところである。一層、市に対して働きかけを強めていきたい。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案3 学長選考会議委員の選出について

<質疑応答>なし

【議長】提案のとおり、柏原孝委員と井上龍子委員を学長選考会議委員に選出することを承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 2018年度卒業生の就職状況について

<質疑応答>

[委員]

○就職率も地元就職率も高くて素晴らしいが、今は就職活動が短期決戦化していて、学生は景気もいいし内定はとるが納得度が低い。今は有効求人倍率も1.82で超氷河期と言われた99年は0.99もなかった。協定がなくなると、来年以降はどんどん短期化する傾向が高まる。企業定着等、卒業後の学生の状況の把握もしていただきたい。

[委員]

○離職率が高く、3年後どうなっているのか、追跡調査は重要だと思う。3年後、東京に就職した学生が地元に戻ってきている、そういう点も踏まえて調査したほうがいい。

[委員]

○地元就職者数が増え、北九大の地域での役割を果たしていると思う。キャリアセンターで現役学生はしっかり就職支援を受けていると思うが、離職者が増えている今、若いうちに早期離職した卒業生の支援というか受け皿みたいな組織や相談窓口はあるのか。卒業生が戻ってきて、求人情報等を得ることは現状可能なのか。

[理事]

○キャリアセンターで既卒者の対応は原則行っている。ただ、どなたが離職していて求職中なのかは把握できていない。認証評価も近づいてきたので、卒業生の満足度やどんな行動をしているかを把握する必要性には迫られている。行わなければならないといけないと感じており、制度設計などを検討したい。

[委員]

○卒業生が自ら相談に来た場合は対応しているのか

[理事]

○もちろん対応している

報告2 2019年度入学者選抜試験の結果について

<質疑応答>

[委員]

○来年度までは、入試改革前に浪人せず現役志向が上がっている所以で志願者は増えると思う。関東エリアでは、大きい大学が困り込みをできなくなった影響もあり志願者が増えた。あと2年、いろいろ変えるチャンスかもしれない。

[委員]

○志願者は増えているが、内訳をみると国際環境工学部が若干減っている。情報工学などは今人気があるので、国際環境工学部の中でその学科がどうだったのか内訳が知りたい。
国立では滋賀大学、公立では横浜市立大学がデータサイエンス学部を作って、とても人気を博している。高校生から見ると埋もれている感じもしないではないが、今後の工学部の広報戦略、どうやって中身をアピールしていくのか等教えてほしい。

[理事]

○国際環境工学部には5つの学科があって、今回苦戦したのは、エネルギー循環化学科。化学の学科が前期日程1.2倍。ここが全体を引き下げる要因になった。全国的に化学の人気が落ち込んでいる。理系教育、理科というと、ロボット、IT、バイオなどに引っ張られていて、今後この学科が何をしているのか中身をPRして高校生の興味を引く。または、入試科目が物理と化

学なので、生物を入れる、エネルギー循環化学科も生物に力を入れた研究が増えているので、生物に興味のある学生を引き入れるとか、そういったことも考えていかないといけない。学科名が非常に分かりにくい。そういった声を、近隣の高校の先生方からもご意見をいただく。機械システム工学科、情報システム工学科、建築デザイン学科、環境生命工学科の4つは学科名で何をやっているかわかる。エネルギー循環化学科ができて10年頑張ってきたけど、名前やカリキュラムも考えていこうと思う。

[委員]

○情報システム工学科はどうですか

[理事]

○おそらく志願倍率は上がっている。今までは情報メディア工学科だったが、情報システムというわかりやすい名称に変えた。

[事務局]

○配布した大学案内に、倍率等記載しているので参考にしてほしい。

[理事長]

世の中の要請にこたえる形で、希望者が多い学部はキャパシティの問題や、倍率もあるが、定員をどうするかも検討する必要がある。

報告3 2018年度入試広報活動報告及び2019年度入試広報計画について

<質疑応答>

[委員]

○2021年に入試が大きく変わるということで、高校生に不利益がないよう2年前に告知する2年前ルールがあって、今年度広報しないといけないと思うが、本学では入試をどうする予定なのか、英語4機能とか主体性とか、いつ頃決めてどういう風に広報するのか教えてほしい。

[事務局]

○各学部からの意見を取りまとめているところである。7月3日の進路指導者懇談会で主な高校の先生が来られるので、まずはこちらでどのようにやると公表する。その後、ホームページ等で公表する段取りで動いている。